

水戸領中御法度箇条秘書

## 凡例

一 「御領中御法度ケ條秘書」(常陸太田市菊池家文書)と題簽がふされた史料を翻刻したものである。

一 内容は、本史料の本文冒頭に「御領中御法度大小二不限御條目并御制札之外、御郡方二而法ヲ立置取扱候類」を記録したものだとして述べられているように御領中すなわち水戸藩の法令や幕府制札だけでなく水戸藩郡奉行所の規定も収める。

本史料の成立時期は不詳。寛文十一年(一六七二)から明和七年(一七七〇)までの「御法度」が記録されている。

二 史料の形態は縦帳、目録は三丁、本文は四十一丁からなる。

三 翻刻にあたり原本の形式や表記方法を残すようつとめたが、編集の必要上、原本の意味を損じないように次のように取り扱った。

(1) 適宜、読点を付した。

(2) 仮名については、片仮名はそのままとし、変体仮名はすべて平仮名に改めた。ただし、助詞の「者」「而」「茂」「江」「与」などは、小さな漢字で示した。

(3) 合字は平仮名で表した。

(4) 繰り返し記号(々・々・々)は、原本の表記に基づいたが、二文字以上繰り返しを示す記号は用いず、文字を繰り返した。

(5) 明らかな誤字(オ編であるべきところが土偏となっているなど)は直したが、原則として右傍に「へ」に正字を示し、十分判読できないときは、「ママ」とした。

(6) 敬礼のための平出・台頭は二字空欠とし、闕字は一字空欠とした。

四 使用した符号は次の通り。

「へ」編者による補足、訂正、註記。□は判読不能な文字。

五 本記録には差別に関する記述がある。私たちはこのような差別・偏見を容認するものではない。

しかし当時の社会の実態をしめすものとして、あえて記述を残すこととした。私たちはあらゆる差別と偏見がこの社会からなくなることが願うものである。

六 本史料の解説にあたった古文書学習会の会員は次の通りである。

赤津俊明（代表） 久保睦子 小林祥司

佐々木久 島崎和夫 千葉椎奈 萩原明子

御領中御法度々條秘書

（改丁）

目錄

第一	御鷹場運上	第二	他所諸參詣云々	十九	勸進的	二十	風俗
第三	他所出人云々	第四	入百姓云々	廿一	野乞食非人	二二	道中諸荷物
第五	角力云々	第六	商物之儀の事	二三	百姓奉公	二四	百姓職人
第七	旅人宿事	第八	歌舞伎の事	二五	婚禮	二六	着服
第九	乗打事	第十	武藝云々	二七	他所酒	二八	他所へ島原見物
第十一	神事佛事	十二	他所縁組云々	二九	他所商人	三十	懸碁将棋
十三	花火云々	十四	百姓帯刀云々	三一	法名	卅二	家作
十五	獵師猪鹿防云々	十六	祝天 <sup>天</sup> 丁へ罷越候儀	三三	松茸	卅四	燧石
十七	音信贈答云々	十八	辨當講云々	卅五	沼川殺生	卅六	御立山下椒
				卅七	分附山木伐	卅八	御立山、分附山、寺
				卅九	煙草作		社山木障伐
				四一	用水之儀	四十	からし作
				四二	並木	四二	往還間敷
				四三	造酒屋	四四	作場道
				四四	白土赤土	四四	御用石
				四五	耳附子并やしや附子	四六	石并土并砂
				四七	新屋鋪	四八	脇指帶之儀
				四九	田畠賣買	五十	二男三男分地
				五〇		五二	田畑不作
				五一		五三	
				五二		五四	
				五三			

五五	田島新開	五六	海船川船	九一	郷中ニ而女子置居酒	九二	郷中遊藝
五七	南御郡下野火火繩	五八	中丸村溜池	九三	御領中川々運上場	九四	御鷹場ヶ所
五九	寺社諸奉加	六十	舟賃余計取	九五	振廻不請	九六	富三笠付
六一	諸參詣之者へ乞食ねたり	六二	人馬帳拔人	九七	忍ニ他所へ出妻子持	九八	どんと火
六三	無禮	六四	日待月待	九九	高ぼんほり寝棺	百	無断他所へ出人
六五	博奕	六六	木綿尺幅	百一	郷中三枚裏付	百二	郷中角力事
六七	花火立之義	六八	郷中風俗	百三	幼年老女之罪科	〈以下欠〉	
六九	他所講釋師	七十	紺屋	〈以下、百四から百十六まで編者作成〉			
七一	岩穴籠乞食	七二	片貝	百四	拾い物	百五	郷分地商いの儀
七三	木崎下商物	七四	奉公人欠落	百六	切支丹制札	百七	忠孝制札
七五	他領へ錢賣	七六	金銀返濟	百八	雜事制札	百九	駄賃制札
七七	他所へ養子	七八	子をまひく云々	百十	捨て馬制札	百十一	人売買制札
七九	貸金高利	八十	富士精進事	百十二	鉄砲打ち制札	百十三	浦高札
八一	人返シ	八二	職人之弟子ニ成事	百十四	浦々添高札	百十五	徒党制札
八三	他所へ出行衛不知	八四	義絶勘當	百十六	水戸領内制札場		
八五	他所へ拔人	八六	獨身之者	〈改丁〉			
八七	御連枝様方へ奉公	八八	拔人隱置候節	御領中御法度大小ニ不限御條目并御制札之外御郡			
八九	人返之義ニ付加了簡	九十	江戸御目附方より指	方ニ而法ヲ立置取扱候類左之通			

紙ニ而下ル人

〈第一〉

一 御鷹場村々何ヶ村と御定、尤右村々ニ而ハ鳥殺生都而御停止被 仰付候付、鳥運上ハ御免ニ被仰付候儀ニ御座候、尤御料簡之上御鷹場御減、或窺之上御免ニ相成候村方ハ、月割を以運上をも爲指出候事

宝曆十二年午九月、御鷹場村々ニ而ハ獵師鉄炮爲打候儀、九月朔日より鉄炮致封印置、翌三月朔日より封印切渡、猪鹿爲防申候、其間ハ御停止之旨御達御座候

一 鳥運上之儀者村々ニより高下ハ有之候へ共、御鷹場之外村方よりハ都而運上先年より御定を以浮役ニ組、公納ニ相成候事

但、右運上被 仰付候意味ハ相分り兼候得共、往元ハ村々ニより諸鳥<sup>取</sup>納被仰付候所、村方傷も有之ニ付、取納候年數之内代金年々之分其村切ニ平均を以耆ヶ年分何程と相定、運上指出候様ニ与被仰付候類ニも可有御座哉之事

〈第二〉  
享保八卯

一 他所諸參詣拔參候儀ハ先年より御停止ニ被仰付、猶

亦中興御慈悲之御料簡を以御年貢皆濟致シ田畠仕付之時節ヲ不後村役人を以願出候得ハ吟味之上相濟、若忍ニ商用杯ニかこ付無願諸參詣致候者ハ當人錢耆貫文其村之庄屋七百元組頭十人組頭五百文宛過料申付、其上一村御取付三分上候様ニ与被仰出も有之ニ付右御達を以取扱來候事

但、品ニより嚴重之御沙汰ニ可及旨是亦御達之事右之通取扱候処、若無願諸參詣仕候者有之候段其村より訴人有之候ハ、其一村之取御上ヶ被成候儀ハ御免被遊候旨宝曆十一巳年御座候

〈第三〉

正徳二辰年

一 他所へ出人之儀ハ願之上縁組等ニ而指出候儀ハ吟味之上其時々窺を以相濟來候得共、無願無沙汰ニ出人ニ相成候儀ハ先年より御停止ニ御座候

〈第四〉

一 入百姓之義ハ縦者一村之内惡所等ニ而荒地芝付等ニ相成作り目不相成、無主ニ而御年貢村荷ニ致置候得ハ、其村へ他所遠國者等罷越百姓ニ相成度願も有之候上ハ、人分得卜試彌百姓ニも相成様子ニ有之候へハ其旨村

役人より申出役所吟味之上人別ニ爲組入、右無主之田畑夫々ニ割渡爲作、尤右等之分ハとくと札之上下免ニ申付爲作申候類も有之、其外相應之土地をも爲持候類も有之候処、件之通遠國者等御領内人別ニ組入百姓爲致候分ヲ入百姓と稱申候義ニ御座候

〈第五〉

享保十二末年

一 角力之儀ハ勸進角力催致惣圍鼠木戸等ニ仕、見物錢取之義ハ先年より御停止ニ有之、品ニより願出候へハ勸進相撲ハ伺之上指免候取扱ニ御座候

但、南御郡下玉造村市町ハ冠木芝居他所操勸進角力等都而市町繁昌之ために罷成候類ハ先年より無構興行爲仕來候、并磯濱村内祝町天妃神祭禮三月廿三日同廿四日兩日共ニ冠木芝居勸進相撲等ハ小見物等唱相濟來候、右祭禮後跡小見世物之儀も興行願申出候へハ其時々村方故障等糺之上相濟來候、其外社中も右小見セ物等願有之候へハ相濟來候事

〈第六〉

一 郷中而商物之儀指而指留置候品無御座候へ共、他所商人無意味住居を堅賣弘候類、呉服物近江商人等商

賣致候様來儀ハ是迄御達も有之指留候儀ニ御座候、御領内之者致商賣之儀ハ構不申候儀ニ有之候、乍去藥等手製を以下札看板指出朝鮮人參賣候儀ニ付明和六丑六月御達ニ御座候、金看板等指出候敷、其外朝鮮人參賣之義御達も有之故、是又猥ニ爲賣候儀ハ不致儀ニ御座候、扱亦御町續於郷地諸商賣之儀ハ御町賑之障ニも相成候故を以御停止ニ御座候、併少分之義ハ御免ニ而致商賣候様ニと御達も有之ニ付件之趣を以取扱候儀ニ御座候

〈第七〉

寛文十一亥年

一 旅人宿致候儀耆人ものへ宿貸之儀ハ其所村役人へ申出一夜ハ相貸、二夜共相貸候節ハ慥成者ニ無之候ハ、可爲無用旨先年より御達ニ而郷中觸置候事ニ御座候

〈第八〉

享保七寅年

一 歌舞妓芝居興行之儀ハ前々より御停止ニ有之候間其旨申觸置候、乍去場所品ニより願も有之候へハ窺之上相濟候儀も御座候、猥ニ興行爲致候儀ハ不致候事

但、玉造濱村市町并磯濱村内祝町之義前件相見候

通二御座候

〈第九〉

一 乗打都而無禮等之儀ハ時々役所より申付置、乗打等致候者有之候得ハ縱他御郡之者たり共見咎急度申付候、御郡方御法ニ御座候

但、口付有之乗候者ハ食着無之候

〈第十〉

一 武藝等ハ御停止ニ有之候哉との儀ハ是迄被仰出振ハ相見不申候得共、農業等怠武藝致稽古之類ハ役所より吃卜相止させ申候義ニ御座候

〈第十一〉

享保十二末年

一 神事佛事掟之儀ハ何事ニよらず新規之儀堅不可取立、若無據巨細有之ハ伺出候様ニと 公儀被仰出も有之取扱候義ニ御座候、扱亦神事祭禮等之節座論等致候敷其外彼是取騒候義ハ前々より御達も有之、右等之儀無之様ニ与是亦申付置候儀ニ御座候

〈十二〉

一 他所より御領内へ縁組入人之儀ハ双方之當人村役人加印ニ而願書を以申出候へハ役所料簡を以相濟申候

但、寛延二巳年御領中人別三ヶ月切改御免被仰出

候節、右入人之儀双方之願村役人印形等先方ニ而

六ヶ敷有之、右願無之候而ハ入人も相止候様ニ相成候而ハ不宜趣と相見、右等之類ハ願書不指出候共先ツ暫も其所へ指置村役人共人物等見届之上追而人別組入候振ニ相成候

〈十三〉

明和六丑八月

一 花火之儀ハ先年より御停止ニ而郷中へも申付置御法度取扱候義ニ御座候

〈十四〉

享保十八丑年

一 百姓帶刀之次第之儀ハ前々より御法も有之不相成候へハ何ぞ功勞有之候者ハ伺出候上敷、又ハ御達之上杯ニ而帶刀爲致候儀ハ有之候得共、無故御家中抱分杯ニ相成居村ニ致居住、刀帶候儀ハ勿論 御連枝様方杯より御願等有之候而も帶刀爲致候儀ハ不相成趣窺之上取り扱來候儀ニ御座候

〈十五〉

一 獵師之儀ハ猪鹿發向致作毛被荒及難儀ニ付、先年重ク願之上相濟候処、猪鹿猿山犬狐貉之外諸鳥打申間敷旨、其上鐵炮親子兄弟縁者たり共相貸不申候様、其外



他領入合之場所ニ而も火繩ニ火ヲ付鐵炮持他領境を踏  
越五間三間たり共立入申間數旨御達之上申付猪鹿爲防  
申義ニ御座候

下札 他領之地踏越さる儀寛延三十二年十一月

但、獵師病身死亡等ニ而立代之節ハ其意味村方よ  
り早速爲訴、死亡之儀ニ候ヘハ早速鐵炮取上申候、  
立代之節ハ跡職好之者相撰伺之上立代申付候、尤  
其村ニ後職好人も無之候得ハ同郡之内獵師有之村  
方ニ無之候而ハ不相濟、勿論其村獵師不殘絶、  
又々其村ヘ立替申渡と願候而ハ是又不相濟、前々  
より御法ニ御座候、扱亦自己ニ賣買之儀ハ是亦不  
相成旨被仰出候御法ニ御座候、依而件之趣を以取  
計之事ニ御坐候

下札 一度村方改絶候ヘハ其村ヘ立代之儀不相成旨

延享三寅年御達ニ御座候

〔十六〕

延享四卯年

一 祝町ヘ罷越候儀御停止之儀ハ先年旨儀有之、洗濯屋  
御潰被遊候処入津も相減廻船之者も不致逗留不繁昌ニ  
而所之者渡世ニも相障候願も有之、中興別段之儀を以

洗濯や御免被遊候、然所他所者廻網之者逗留之外ハ町  
人百姓等入込候儀ハ先年より時々被仰出有之郷中へも  
觸置候、於役所致吟味候事

〔十七〕

寛延元辰年

一 音信贈答之儀ハ先年より時々被仰出有之、郷中へも

申觸置致吟味候事ニ御座候

〔十八〕

同年

一 辨天講拔祓頼母子等之儀ハ不心得之者有之、甚身上  
ヲも取崩、其上風義ニ相障候故を以先年より御停止被  
仰出、時々申觸置致吟味候儀ニ御座候

但、近キ頃諸寺院之内諸堂建立杯与申無據意味願  
之上相濟候分ハ格別、百姓之儀ハ縦願有之候而も  
辨天講拔祓頼母子之儀ハ不相濟候事

〔十九〕

同年

一 勸進の興行之儀ハ、前々より御制禁ニ而嚴申觸置掛  
的等仕候者致吟味候事ニ御坐候

〔二十〕

一 郷中而風俗掟之儀、時々申觸置風俗不宜自他村故  
障ニも相成候得ハ糺之上夫々之咎申付候儀、先年より

取扱來候御法ニ御座候

〈二十一〉

寶曆十二年

一 野乞食非人之儀ハ、御領分中村々へ野乞食非人入込右之内ニハ惡る者も交リ惡事致候付、皮多五郎兵衛へ度々申付行衛不知乞食非人自先年爲追放相届兼候付中興乞食非人爲相改老入切ニ木札下させ、札持之外徘徊致候ハ、札持乞食非人見咎、最寄小屋小屋へ申出追放候様申付、以來無札之乞食非人見當候ハ、最寄小屋小屋へ申付爲追放候様ニ伺之上申付、郷中へも申觸吟味爲致候儀ニ御座候

但、乞食非人ハ都而頼かむり不相成候、尤皮多五

郎兵衛ニ限り脇指帶候儀ニ御座候

〈二十二〉

一 道中諸荷物附送等之儀ニ付、御定之儀ハ先年より時々委被公儀被仰出有之ニ付件之趣申觸、郷中間屋間屋ニ而者張紙ニ致置猥無之様取扱申候儀ニ御座候

但、諸荷物多分附送候儀、次所ニより人馬不足之

村方ニ而ハ其最寄村方より助人馬指出無滞相送候

定之次所も有之候儀ニ御座候

〈二十三〉

一 百姓奉公或譜代等ニ出候節、御田地取扱之振之儀、

百姓奉公ニ出候節御田地親類等へ相頼候歟、又ハ親類無之分其村役人致支配候歟、兎角御田地龜抹ニ無之様ニ村役人へ爲取扱候、扱又田地等所持致候もの御田地打捨譜代ニ爲指出候儀者不致儀御座候、若左様等之者も有之候而も御田地等龜抹に相成候儀ニ候へハ譜代等ニ指出候儀ハ村役人不致候様申付候事

〈二十四〉

正徳二辰年

一 百姓職人等ニ相成候次第之儀ハ、病身等ニ而農業之間渡世之足合ニ向々之職分稽古致、尤百姓をも致候義ニ御座候、職人ニ相成候義意味も無之分ハ指而指留候義も無御座候、尤弟子ニ相成候節年季を切り、定之通り引返候事

〈二十五〉

享保元年

一 婚禮葬禮等之節定之儀ハ、都而分限より事輕仕候様ニと先年より被 仰出御條目之面有之ニ付猶亦嚴申付費成義無之様ニ申付置取扱申候儀ニ御座候

但、婚禮之節駕籠輿等之儀ハ前々より御制禁之義

乘懸たり共美々敷義不仕、緋紫ふとん毛氈相用申間敷、勿論祝言之節媒人婿舅兄弟伯父伯母者格別、其外親類出合無用ニ申付、尚亦葬禮之節も右ニ准都而費を省、手酒たり共指出間敷旨申觸置候儀ニ御座候

〈二十六〉

一 百姓着服之儀ハ先年より被 仰出も有之、御停止之品時々申觸置候儀ニ御座候、仍而御停止之品者勿論花美成儀仕候敷目立候儀も有之候得ハ屹相咎候儀ニ御座候

下札 百姓衣服之儀寛延元辰年相見申候、其以前も度々御達相見申候、然ル所同ニ巳年被仰出ニ（マヤ）ハ却木綿ニ限り而ハ却而難儀致候者も有之ニ付袖絹ハ着致候様御達相見申候、寛延元辰年同ニ巳縮服有來候分ハ御免被仰出候

〈二十七〉

一 他所酒入候事御停止ニ有之哉与之儀前々より入穀同様停止ニ取扱申候儀ニ御座候  
但、南御郡下潮來御領之義ハ玉造村より道法四里

余他所ヲ隔遠郷ニ而所々商人等も入込、諸廻船も相懸り粮米仕込等仕候場所御座候間、其所飯米等手支不申候候様ニとの御儀も有之、於潮來村仙臺廻り米等入穀賣買先年より御構無之入津仕來候、他所より入酒之儀も右村ニハ入穀ニ准御見捨ニ罷成候事

〈二十八〉

一 他所へ島原狂言見物ハ停止致置、尤得ト相糺似セものにも不相見候得ハ一夜之宿ハ相貸、二夜とも留不申、紛敷ものに相見候ハ、村送りニ致候様ニと先年より時々申付置候事ニ御座候

〈二十九〉

（元文）  
享保元辰年

一 他所商人參候節掟之儀ハ、呉服物椀家具無益之器物商賣爲致候儀其外菓賣等爲入込之義前々より御制禁ニ被仰出候ニ付、件之趣を以吟味致候儀ニ御座候、併他所より入込候市場之わけも御座候

但、先年より有來市場ハ他所商人爲入込來候村方も御座候事

〈三十三〉

一 懸ヶ基將某之儀前々より停止ニ而申觸置候儀ニ御座候

〈三十一〉

寛保三亥年

一 百姓法名ニ居士号等を付候儀ニ、伺之上故有之別段之ものニ而居士号等付候もの格別、金子等指出附候義爲仕間敷旨停止ニ申觸置取扱申候儀ニ御座候

往昔家筋等之故在之居士号付候分ハ格別、新ニ金子等指出居士号付候儀爲仕不申候事ニ御座候

〈三十二〉

一 家作之儀、郷村御停止之家作仕候儀ハ勿論、其外百姓分限ニ不應普請等致、奢ヶ間敷儀有之候へハ屹卜答申附、亦ハ余計之御用金等申附候義ニ御座候

〈三十三〉

(松茸)

一 家作之儀、郷村御立山入口詰切番人小屋相掛昼夜番人附置、山横目、山守山廻リ爲致爲取納、亦者山拂ニ申付候分附山より出候ハ半分公納ニ致候事御座候

但、松茸山へ忍入候者も有之候得ハ捕咎過料等申付候

〈三十四〉

一 燧石山之儀、西金砂山并田野、諸澤、追原畑、天下野右四ヶ村散野より燧石掘出候処、年季運上を以年々御益金指上爲掘申候、仍而諸澤村内燧石山取扱役所相立、年中浮役手代老人相詰、石出候ヶ所々相廻、石掘人致下知、掘出石之儀ハ相改掘石をしらへ、山俵拾貳貫目入老俵と相定、貫目改運上人へ相渡申候、石掘之義者田野、諸澤、追原畑、天下野百姓之内農業之間ニ掘賃錢ニ爲掘申候

〈三十五〉

一 沼川殺生之儀御鷹場村々ハ指留、其外ハ運上に申付候ヶ所も有之候、右場所ハ運上人之外殺生不罷成候

〈三十六〉

一 御立山下榎之儀八年々入札を以拂代公納申付候場所も有之、亦者定直段ニ而下撤代指出候村も御座候、其外下榎不申付御立山ハ人馬出入指留申候事

〈三十七〉

一 分附山ニ而木伐取候儀、少分之儀者勝手次第ニ爲仕候へ共、大木御用等に相成候儀も有之候間、大分之木數伐取、拂山に致候儀ハ役所へ願出見分を請、伐取候

様二と申附置候事

但、南御郡下分付山御立木、半分公納半分山主へ

被下候御法に御座候間、先年より南御郡へ組候

村々百姓分付山之儀ハ木伐候儀壹本たりとも無願

伐取候儀御停止、并居藪畠山之立木ハ不殘地主へ

爲取候へ共、是又無願ニ而伐取候儀御停止申觸候

事

〈三十八〉

一 御立山、分附山、寺社山、百姓居藪等、田畑或道木

障等ニ罷成候分ハ於役所見分之上木障伐爲致候事

但、爲伐候節ハ御立山と違一ト通申出爲伐申候

〈三十九〉

一 煙草作候儀ハ本郷新田共に無構爲作申候、尤 公儀

巡見衆被通候節ハ尋有之候ハ、新田へ計作付候と爲答

申候事ニ御座候

〈四十〉

一 からし作付候儀も本田へハ作付不申候様ニ申付候義

無御座候、からしの義ハ土地を荒候作毛ニ有之候間、

川根ごみ等ニ而外之作毛仕付候而ハ出來過用立不申義

も有之候而、右等之土へハからし仕付候へハ翌年之作

毛宜敷出來候付、重ニ川根ごみ真土等之場所へ仕付申

候様相定置候儀ニ御座候

〈四十一〉

一 用水之儀ハ村方ニより古來より定置、他村入合ニ水

引候村も御座候、又ハ他村土地へ溜池或江筋付候而水

引候義ハ、池代、江代、江下水掛り田より年貢相辨候

儀ニ御座候事

〈四十二〉

一 往還之儀ハ古來より間敷屹ト定候儀も無御座候事

〈四十三〉

一 並木之儀ハ伺之上伐取候儀も御座候、尤風通り等有

之節一ト通御心得ニ申出入札拂等ニ致候儀も御座候

但、往來並木等者中興伺之上風返り等之分ハ役所

切ニ而取扱申候事

〈四十四〉

一 作場道之義、其場所々ニより道幅定置候義も有之候

へ共、此義ハ其所之了簡を以幅九尺或ハ六尺迄ニ定置

候事ニ御座候

〈四十五〉

一 造酒屋何軒と定候村無御座候事

但、作り酒屋之義ハ役所ニ酒株石高元帳有之、賣買之節ハ御町在方共ニ双方願之上相濟、尤酒株石高無願ニ而賣買御停止、酒株無之者造酒屋御停止之事

〔四十六〕

一 御用石出候場所ハ都而留山ニ申付候事

但、御郡方へ願出候上指上爲取來候石場も有之候事

〔四十七〕

一 白土赤土等出候場所右同断、或運上ニ申付候場所も

有之候事

〔四十八〕

太田御郡下分

一 小久慈石 大子村 一 淺黄石 國安村

一 此式行留山ニ申付候事

一 木葉石 野上村 一 貝殻石 上根本村

此式行留山ニハ不申付候処相納候義御座候

松岡御郡下分

一 礪崎石 平礪村 一 島寒水石 瀬谷村

一 白寒水石 真弓村 一 斑石 町屋村

一 寒水石、青石、鍾乳石 諏訪村 一 温石、白羽石、伽羅石 白羽村

一 白玉子石 會瀬村 以上七ヶ村留山ニ申付置候

武茂御郡下分

一 燧石有之村々 下小瀬 那賀 福島

一 玉川燧石 北塩子 西塩子

以上五ヶ村留山ニ申付置候

南御郡下

一 又熊石 是ハ石役錢上納爲仕石爲取申候

一 白土赤土等出候場所右同断、或運上申付候場所も有

之候

太田御郡下

一 赤土 大平村 是ハ指留申候

一 白土 町田 是ハ運上ニ爲取申候

松岡御郡下

一 燒物土 日棚村 一 みかき砂 砂澤村

一 白土 常福寺村 一 赤土 高貫村

右四ヶ村留山ニ申付候

武茂御郡下

一 赤土 小場村 是ハ右同斷

南御郡下

一 赤土 塩子村 是ハ年々運上爲相納爲取申候

〈四十九〉

一 御立山散野ニ有之耳附子、やしや附子運上申付候事

〈五十〉

一 郷村之もの拵候脇指帯候儀、御郡方一同申合停止申

付置候

〈五十一〉

享保十四酉年

一 郷村ニ而無願新屋敷を構候儀御停止之事

〈五十二〉

元禄十四巳五月

一 田畑少分所持之百姓次男三男へ持參候少高をわけ分

家に不罷成候事

一 百姓所持之田畠賣買之節悪所を殘置拔賣ニ致候殘ハ

田畠村荷等ニ罷成候儀停止之事

〈五十三〉

一 固元持主へ石高爲持置、御年貢上納所役錢等をも爲

相勤、土地計買取所持致候儀御停止之事

但、永代賣渡證文、年季を定、田畠買取、石高迄

拔取、買人ニ而耕作致シ、右元金へ利足加、年季

明候節元利高金ニ相成、元地主可返手段無之様ニ

賣買仕候儀御停止之事

〈五十四〉

宝曆二申八月

一 田方老畝老歩たり共無故致不作候儀、前々より御停

止之事

附、荒植鋤植等前々より停止申觸候事

〈五十五〉

一 田畠新開試ニ開候へ共役所無訴開候儀ハ不相成候事

〈五十六〉

一 海船川船共ニ御極印無之船乗候儀前々より御停止之

事

附、南御郡下川船廻船御極印并他領者と船持合も

御停止之事

〈五十七〉

一 南御郡下御立山前々御拂跡野火有之仕立兼候付、冬

春枯野之節右御山最寄往還筋へ番人附置、往還之もの

明松、火なわ、加へきせる相押置候事

〈五十八〉

一 南御郡下中丸村溜池殺生不罷成并石崎日沼浦、玉里御留川、下玉里村女池運上人之外殺生不相成候事

〈五十九〉

享保十四酉年

一 寺社諸奉加猥に爲入込不申候事

〈六十〉

宝曆九卯年

一 舟渡二而往來之者に舟越共船ちん余計二ねたり候義

并諸參詣之旅人酒代等ねたり候義御停止之事

〈六十一〉

同年

一 諸參詣往來之者へ乞食非人等錢ねたり候儀停止申觸

候事

〈六十二〉

一 在々之男女奉公人水吞等二至迄人馬帳を以抜人致候

義ハ正徳二辰年より嚴人別改被仰付、初發ハ村毎二一

帳宛元帳於役所仕立置、毎月出生死亡絶前奉公人出入

増減村より書出取月切二右元帳へ引合増減相改候処、

遠郷も有之月切二書付爲指出候而ハ傷ニも成候二付、

同年又々新二三ヶ月二書付、村より取相改候由之處、

右改之儀郷民臨時物入も有之相痛二付御救を以寛延二

巳年右三ヶ月切改御免被仰出候間、當時ハ老ヶ年切二

暮二村方より惣人別帳爲書出増減見届申候事二御座候

〈六十三〉

元禄十丑年

一 御領内之百姓前々より 被仰出候通無礼無之様可申

付旨被仰出候間、其旨屹卜申付置候事二御座候

〈六十四〉

同十四巳年

一 日待月待仕候由二而百姓共寄合費有之候間、日待月

待諸勸進堅御停止之旨被仰出候付、此旨申付置候事

〈六十五〉

宝永四亥年

一 御領分村々御制禁之博奕相背候者於有之者其村之庄

屋并親子兄弟其録（巻）を致没収、追放可申付旨、惣而猥成

儀仕候者ハ兼而庄屋并當人之一家制可申候、外より訴

人有之候ハ、屹可被 仰付旨被仰出候、依而右博奕之

儀ハ心ヲ付嚴致吟味候事

〈六十六〉

一 於在々致賣買候木綿尺幅先年相定リ判形を加改候由

之處、左様有之候而ハ他所木綿賣買ニ致相成、勿論御



領内ニ而木綿買候障ニも相成候由ニ而右木綿致判形加候儀御用捨被遊、向後 公儀御定之尺尺幅(寸)を以賣買仕候様ニと被 仰付候付、其旨郷中へ申觸置候事ニ御座候

〈六十七〉

享保十五戌年

一 花火立候儀前々より御法度之事ニ候処、所々ニ而花火有由粗相聞候間、以來花火立候族於有之ハ御吟味之上屹御沙汰可有之旨御達御座候間、此旨郷村へも申觸置遂吟味候事ニ御座候

〈六十八〉

寛延二巳年

一 郷中風俗等之儀ニ付、ケ条書を以御達之内當取扱候分左之通御座候

一 郷中風俗之義度々被仰出候得共、世風ニ押詰り元結澤山ニ巻、裾長ニ塗緒之下駄等相用候儀屹相慎候様申觸置時々遂吟味候事

一 村中より罷出、正二月之頃夜焼と申を致し、春留之節且夜陰放火氣燃上り不申候ニ付、立木へハ不相障、葉房悉者不燃候共、連々夏中迄二ハ枯失候故、猪鹿之

住所なく格別少く成、山中之田畠荒地ニ成候分迄も仕付よく、御立山并分附山迄野火之患も遁れ、旁宜有之故、年々山守立合、右夜焼申付候事ニ候

〈六十九〉

宝曆五亥年

一 他所より講釈師御領内へ參候ハ、徘徊爲致間敷旨御達ニ付、右講釈師御領内へ決而徘徊ハ勿論宿等爲致間敷旨屹郷中へ相觸置候事

〈七十〉

一 郷中ニ罷在候紺屋共無地之染計仕、紋付形付之類染不申候様可申付旨御達御座候、然所濱田、細谷、常葉三ヶ村ハ御家中、町人共之誂重ニ而郷中之者より誂之者希成儀ニ付、右町續ニ罷在候紺屋共形付之紋付之染不相成候而ハ御町へ引越渡世仕候より外無之難儀之趣ニ付、伺之上右三ヶ村御町續候紺屋共ニ限り御家中并御町より誂染候分計紋付形付見濟爲染、尤外之村々ハ紋付形付不相成候旨郷中へ申觸置候事

〈七十一〉

明和四亥年

一 御領中村々岩穴籠之乞食非人順禮野道心おけ等入込

致惡事候趣ニ候間、追放可申付旨孫衛門へ申付、右等之者共見當次第相拂候様勿論都而非人等以來癩病かたわ之類ハ格別、其外勸進致候者ハ一向かむり者致候儀此節より停止ニ申付候事

〈七十二〉

明和六丑年

一 下御町紺屋丁川筋并備前堀ニ而片貝より出候真珠取候儀ニ付自今御停止ニ相成候旨御達ニ付、所々溜池川筋ニ而片貝取不申候様ニ与郷中相觸置候事

〈七十三〉

同

一 太田村木崎下ニおゐて鑄錢吹立御免ニ付、右鑄錢場<sup>(題)</sup>困之外表長屋通ニ而諸商もの、酢酒<sup>(題)</sup>麵類商賣願主共願ニて相濟、夫々之商賣致候処、御領内之もの共件之場所へ入込、喧嘩口論不束之次第有之候ハ、理非不論、嚴重ニ咎ヲ申付候条、長屋通りへ堅入込不申候様村中老人切ニ屹可申付旨相觸置候事

〈七十四〉

一 御家中ニ奉公致欠落致候者之御取扱之事  
一 諸奉公人欠落之儀主人断次第給金濟方之儀請人急度申付候事

但、給金濟方請人へ申付候以後若滞候ハ、請人身代ニ限可申付候事

右享保四亥八月諸奉公人之儀ニ付御町方へ御達被成候由ニ而爲心得御奉行衆より御達別紙之内件之通相見候、右等之儀有之候へハ其振ニ取扱候事

〈七十五〉

一 他領へ錢賣之節澤山賣候儀并 公儀御役人中奥大名衆被通候節賣遣候節之事

一 正徳四年四月被 仰出候御條目ニ御町在々錢賣致并他領へ錢出候儀御停止之儀勿論之事ニ候、若他領へ錢出候者ハ出候錢之高程其者へ金子を以又他領より錢爲相調御領分相場よりハ下直に爲相拂、尤錢賣致候者於有之ハ貯置候錢是又御領分相場より下直ニ爲相拂可申旨御條目ニ相見候、公儀御役人中奥大名衆被通候節賣遣候儀ニ付御達ハ相見不申、是ハ他領と道中御領内ニ而相拂候儀ニ、其上右之義役所より相押候而ハ村方難儀も有之、被通候衆中錢調候義不相成、甚手遣之儀も有之、右ニ順他所者通りも薄ク罷成候様ニ可相成義ハ、

依之右之義ハ指留不申候事ニ御座候

〈七十六〉

一 金銀返濟之儀ニ付 公儀より被 仰出候付御達之事

一 右金銀返濟之儀ニ付寶曆九年卯四月 公儀より御觸ニ付御目付方より被仰達書左之通

公儀より別紙之通御觸有之候間其旨可被相心得候、夫ニ付御家中之族他借懸り合ニ而萬一公儀御呼出有之候節、縱於 公邊御裁訴何程輕相濟候共 上之御名も出御外分ニ拘、第一別紙之通重御觸も有之、上ニ以來右等之儀於有之者猶更嚴重ニ被仰付筈ニ有之候条、致他借候者も有之候ハ、不法之取扱無之様ニ末々迄屹卜相達置可申候事

右之趣御目付方より被仰渡候間、郷村も觸出候事御座候

〈七十七〉

一 他所へ養子等ニ參居引返無之者三ヶ年廻り證文に取扱振之事

一 御領内より他領へ養子等ニ願相濟罷越候男女、

男者直ニ罷出、女ハ其夫、養女等ハ其養父或由緒

もの三ヶ年ニ一度ツ、役所へ罷出、罷在候證據

判仕御定法ニ候処遠國之ものハ直々罷出候儀傷ニ

罷成候間御領内舅方之ものより不相替他領ニ罷在

候段三ヶ年ニ壹度ツ、右舅方之者村役人召連一同

役所へ申出候、又ハ手代共郷中へ罷出候砌、最寄

之村々ハ右之段手代へ申出候様兼而申觸置候三ヶ

年廻り證文ハ取扱不申候事御座候

〈七十八〉

享保十二未三月

一 郷中子をまひくニ付御達之事

一 郷中町共ニ子をまひくと申儀有之様ニ候、間々

ニハ諸士之内ニも有之様ニ粗相聞候、是人論ニ背

候儀禽獸ニもおとり候事、先御代ニも御禁止有之

候処、至に今ても有之様相聞以後ハ堅仕間敷候、

此段屹可心得候事

〈七十九〉

一 在々ニて貸金并初年高利ニ貸候儀ニ付御達之事

一 在々ニ而至極高利之金錢穀物等相貸候段も及御

聞、元金拾五兩二付壹ヶ月壹分之利、貳拾兩二付壹分之利足迄ハ貸候共、是より高利ニ相貸儀候無之様可申付旨、享保十一年御奉行衆より御達有之候間郷村へも申觸候、併相對借貸之儀者願有之候而も取上不申候事ニ御座候

但、相對貸ニ而も無利足預り金、其外御定之通老割利付貸、御年貢指替金、助金等之貸金之儀ハ役所ニ而願取上爲相濟候様取計候事

〈八十〉

一 富士精進ニ入候者之事

一 於御町近年富士精進与申儀有之候処此度より相止、依之御町内も郷村も富士精進相止候様ニ享保十七子閏五月御奉行衆より御達有之候事

〈八十一〉

正徳二辰九月

一 人返シ被 仰付他所に住居致候者共之儀、先年も被仰出候通他所ニ住居仕候もの共年數ニ不限たとへ何拾ヶ年罷在候共可被召帰義ニ候へ共、御仁恵を以年數及貳拾ヶ年他所に罷在候者共ハ令用捨、貳拾ヶ年罷在候者共之分ハ其程を遂吟味引返可申趣御達ニ御座候

〈八十二〉

同

一 願之上職人之弟子ニ相成候もの之儀ハ百姓之内兄弟も有之、持分之田畠働作不仕、間々之渡世足し合ニ爲相成候、其所相應之職分勝手を以相習、又ハ病身或ハ農業不得手等之者ハ職分相習、役所へ訴出候節ハ其分ニより御國役をも爲相勤候様取扱來候

〈八十三〉

同

一 前方他所へ罷越行衛不相知者引返候様御取扱之儀者、欠落致候もの共親兄弟へ申付引返可申候、親兄弟無之者ハ由緒并其町其村へ申付、爲相尋候而者傷ニ罷成、郷村ハ別而農業等障罷成候条其心得を以申付、居所連々承札次第引返し可申趣御達ニ御座候

〈八十四〉

同

一 義絶勘當仕候者共引返候様御取扱之儀ハ、其親類へ様子相尋、重キ悪事無之もの共ハ可引返候、其内不孝不義重惡之ものハ了簡之上可令差略事

〈八十五〉

同

一 他所へ只今迄拔人之内、大名衆旗本衆ニ不限都而致

奉公侍分ニ罷成、身を持、難引返もの之御取扱之義、

其親類より令通達一往罷下、御町ハ御町奉行、郷村者御郡奉行へ申出可請指圖、尤誰方ニ何奉公仕僞無之段證文可指出候、其以後三ヶ年廻右役所へ致附届、今以先達而之主人誰方ニ罷在候旨證文可指出、若其内身軀等切、又々輕キ奉公仕候ハ、引返可申候

但、女奉公人之分ハ右役所へ順致届、定法之通證文指出可申候事

〔八十六〕

同

一 由緒茂無之獨身之者連々尋出引返候者之御取扱之儀ハ、其者田地等も所持不致渡世ニ可令難義候間、其筋之役人共取計奉公等ニ有付候内ハ其所之身を持候もの願次第爲召遣置不及難義様可仕旨御達ニ御座候

〔八十七〕

同

一 御連枝様方ニ致奉公侍分ハ格別、手代以下輕キ者共之分御取扱之儀ハ都而老度罷下、御町ハ御町奉行、郷村ハ御郡奉行得指圖罷登、其以後届仕義者御定法を以可相守候、其者共御暇取候ハ、早々引返し可申旨御達

御座候

但、自今奉公ニ罷出候儀ハ若老衆より可得指圖事

同

一 御連枝様方御家來ニ致奉公候者御取扱之義、其主人へ致届出、代之節引返可申由御達ニ御座候

〔八十八〕

同

一 他所へ抜人有之もの、其所之役人隱置候節ハ御取扱并引返候後又々他所へ罷出候ハ、當人御取扱之義、向後他所抜人有之を其所之役人隱置不申出、改之上於申出ハ其品ニより過料或ハ御仕置可被仰付旨御達御座候付札 金貳兩當人 金壹兩宛庄屋組頭十人組頭

一 右人返ニ付又々他所へ罷出候ハ、其當人ハ死罪可被仰付并其所之役人或可爲曲事

〔八十九〕

同

一 人返御定被仰付候付、嚴取扱候而ハ相傷ニ付、其間加了簡取扱振御達左之通御座候

一 此度人返被仰付候付、御定書之趣を以可取計候、然共御定書を以無用無益之義を嚴取扱候而ハ相傷、尊慮ニ不叶義候条、此間ハ了簡を以可令差略候、併

寛宥過候而ハ可相弛候間、其節ニ隨而急度可取扱義ニ候、嚴密ニ申付左も無之義ハ加了簡、非道無之御定書を相用、各々勘辨を以取扱可申旨御達御座候

同

一 人返御定書百姓共へ御達振之儀ハ、御定書之趣役人計存罷在、愚民之者共不存候ハ、自然と弛も可出事候間、御町在々之役人者不及申、惣町人惣百姓男女共ニ委申聞、御定書之趣不殘存罷在候様ニ取計可申旨御達御座候

一 公儀御扶持人ニ相成候者不限輕重御取扱振之義、古來より取扱候振相見不申候処都而 公儀ニ拘候儀ハ其時々伺之上相極申候義ニ御座候

正徳二辰九月

一 他所ニ致奉公罷有候者并職人弟子等ニ相成候もの取扱之義ハ、職人之弟子或商見習等ニ年季ヲ切、他所へ罷出候者年季明キ次第急度可引返旨御達

〔九十一〕

寛保三亥十二月

一 江戸御目付方より指紙御添御指下被成候者、道中ニ而致出奔候者、役所取扱之儀ハ其者之居村へ申遣札之

上見出候得ハ早速居村へ不立帰罷在候段不調法ニ付入獄申付、扱又御目付方指紙不相納致延引候段是又不届ニ付、御法之通過料御目付方より其者へ可申付旨御達之振ニ御坐候

〔九十一〕

同

一 郷中ニ而女子を抱置、居酒賣之儀、近年銚子邊より在々御町共ニ下女召抱候由、就中坂戸笠原石塚太田額田邊酒屋ニ而召抱置商等之賑ニ指置候由之処、右村々之外ニも可有之候処、御政事ニも相障甚不宜候間、右等之儀も無之相べり候様吃前之村々へ申付候様御達ニ付其段村々へも相達置取扱申候義ニ御座候

〔九十二〕

延享五辰二月

一 郷中之者遊藝ニ懸り候義ハ、度々 被仰出も有之御停止候処、相弛候趣も粗相聞候付、先年被 仰出も御條目之通相守候様、若相背候者有之候ハ、其品ニより當人ハ勿論村役人共迄可爲曲事旨被 仰出有之ニ付、

郷村へも其段申觸置、停止ニ取扱候義ニ御座候

〔九十三〕

一 御領分中川々運上場之事

村松真崎浦鯉鮒運上

久慈川宇留野村舟渡より磯崎村迄鮭留運上

久慈川鮭運上

久慈川太子村押川落合より下野宮村八溝川落合

迄鮭留運上

但、鮭鱒鮎殺生運上ニ御座候処公納ハ鮭留運

上二候

白庭川鮭運上

石岡川鮎運上

友部川右同斷

島名川右同斷

潮來村波送浦網代魚漁

是八年々御茶金運上納魚漁爲仕候

小川村右同斷

玉川村鮎運上

諏訪村右同斷

成澤川右同斷

入野川右同斷

海老澤村蒲付瀨尻川尻魚運上

一 田伏村大溜池鳥運上

一 上中下石崎三ヶ村餅(糰)なわ鳥運上

〈九十四〉

一 御領中御鷹場ヶ所之事

田中々 小目 下土木内 内田 常葉 臺渡 青柳

中河内 田谷 戸村 坏渡 太田 藤田 島村 小島

坂戸 坂戸町付 澁井 塩ヶ崎 細谷 濱田 吉沼

上大野東 同西 中大野 下大野 小泉 川又 磯濱

湊 柳澤 三反田 勝倉 枝川 金上

都合三拾六ヶ村

〈九十五〉

一 郷中振廻請不申候事

右之通御座候 御下國之節ハ相過申候

右御郡下御代官方手代共郷村御用ニ罷出候節ハ勿論百

姓共之内より音物振廻等請候義堅御制禁之儀前々より

度々被 仰出候所、今以不相止義共有之由相聞候条、

以來右等之儀無之様急度可被申付候、此已後不宜趣相

〈九十六〉

一 富三笠之事

一 三笠附并惣而致博奕候者只今迄村方二有之候而も  
事六ヶ數存、終二三笠付并博奕致候もの之義不申出  
仍之自今其村々名主可致吟味候、相名主有之村々ハ  
一同申合遂吟味、三笠付致候者も候ハ、其分限二應  
過料鏝申付取上可申候

但、三笠付候点者金二元宿頭取之者ハ別而過料鏝  
重申付、句撰手傳之者共より輕可申付候、員數  
之義ハ名主致勘辨伺二不及可取上事

一 三笠付并致博奕候者當人過料、鏝出候儀難成もの  
ハ、地借ハ地主、召仕候者主人二爲出可申事

一 惣而右類之者名主吟味仕候事、令難渋候歟又ハ過  
料指出候儀相滞事有之候ハ、御料ハ御代官、私料ハ  
地頭へ可訴出候、且又過料取上候節ハ不及届候事

一 右過料鏝取上候義、年寄組頭立合帳面二記置、惣  
百姓入用二可致候、其拂方之儀何入用二拂候段、惣  
百姓へ申聞候上判形可取置候事

一 三笠付博奕仕候者度々過料指上候上猶不相止者捕  
置早速可訴出事

右之通相定候間、此旨名主屹卜可相守候、此上役人爲

見廻可申候間見遁聞遁仕におゐてハ名主組頭可爲曲事  
旨、享保八卯六月中公儀より御達ニ御座候候

〔九十七〕

正徳二辰九月

一 役所二不訴出忍に他所へ罷出、妻子を持身重キ者之  
御取扱之義ハ、居所相尋可引返候、然内江戶其外他所  
二罷在、妻子ヲ持身重ものハ可令用捨、縦身ヲ持候共  
店借獨身者不及言、妻子有之候共於御領分其職ヲ以渡  
世可相成筋之者ハ見計可引返之旨御達候事

但、難引返候者ハ其旨御奉行所へ申出可得差圖事

〔九十八〕

一 正月十四日どんど火焚之義ハ、四郡共二古來より之  
御用留ニ相分り不申候処、百姓共ハ鳥追と稱候而田方  
へ鳥之不付事を古來より申傳、年々宿内人家等を離候  
場所にて子共之遊ニ焚來申候義ニ御座候而右之儀ニ付  
候而ハ役所より急度相觸候義ニ御座候

〔九十九〕

一 高ほんほり、寢棺之儀、百姓躰之者古來より御停止  
之達振四郡共に相分り不申候、古來之儀ハ如何御座候  
哉、郷中都而奢かましき義仕間敷趣、近來者別而被仰



出も有之、役所より時々申付置候間、右等之葬礼仕候者相聞不申候

〈百〉

一 御領中男女無断他所へ罷出候者、當人御取扱并庄や御取、扱拘（現）無據罷出候ものハ、其村々庄屋切紙ニ而指出振之義ハ四郡共ニ留相分り不申候付、以來右等之振有之節ハ其筋へ申出、御下知之上取扱之義ニ御座候

〈百一〉

一 郷中之者三枚裏付はき候義、御達振四郡共ニ留相分り不申候処、都而奢かましき義仕間敷旨時々相觸候間、右等之身振之者見當候ハ、糺之上屹ト申付候儀ニ御座候

〈百二〉

一 郷中ニ而角力を取御田地を踏荒ニ付、御達振之義四郡共ニ留相分不申候所、村内神事祭礼等之節、近郷之者共鎮守之森敷又ハ散野等ニ而子共交り角力を取候儀も忍ニハ有之候趣ニ候へ共、御田地に踏荒候義ハ甚不調法ニ付、役所へ相聞候へハ畢竟村役人不取計にて右等之義も出來候へハ糺之上村役人一同屹相呵申候

儀御座候（二脱）

〈百三〉

（幼年老女之罪科の条脱）

〈百四〉

一 都而拾物落人相知候得ハ被下、腰（物）之者ニ限御取上ニ相成候哉之儀

古來より右等之儀有之候節ハ其村役人へ申出、拾もの致候趣其最寄々へ札相立置、主相知候へハとくと糺之上其品相返申候、且腰物ニ限御取上ニ相成候段四郡共ニ古來より御達振相見不申候間、併諸士中ハ勿論諸奉公人（無）へ不礼不仕候様申付置迄之義ニ御座候

〈百五〉

一 郷分地商之儀、別冊ニも委細相認申候処、御町續郷地ニ而諸商買致候而ハ御町之障ニ罷成候故を以享保八卯年被仰出、御町續郷地ニ而品數を決、少分之商物計御免被遊候処、左候而ハ商買致付候者共渡世送り兼、至極困窮仕候由願之趣も有之付、享保十四酉九月左之品數限り御町續郷分地ニて商買物御免ニ御座候

- 一 糺屋 一 清酒 一 栗柿并輕菓子
- 一 餅 一 がらがら古拂物 一 濁酒
- 一 酢、醬油、油 一 草履、草鞋 一 刻煙草

一 豆腐 一 紙、苧

右之通御免之趣御達御座候処、右品數計御免ニ御座候而ハ村方難儀筋南并武茂扱下より願出候間、其後又々右御定之外ヲも商買物御馳被下候様ニ仕度旨願申出候間、其段奉伺候処、寶曆十二年閏四月若老衆より御達之上御町續郷分地左之ヶ所々ニ而商買之品をわけ御免ニ相濟候分左之通ニ御座候

南御郡下

一 吉田村内同心町 當時ハ上宿下宿と唱申候

御定商物數之外膳切そば、うんとんや壱軒并煮賣、赤飯賣買勝手次第、元結、油紙、たはこ入者御之外賣買是又勝手次第可申付旨被仰付候

一 細谷村内御中間町 一 同村内新船渡

御定之商物數之外膳切そば、うとん(巻カ)や新軒、尤濁酒等賣買之義ハ同心町之通相心得可申旨被仰付候

一 細谷村内寶鏡院門前 一 同村内鉄炮場

御定賣買物之外煮賣、赤飯賣買勝手次第、元結、油紙、たはこ入商賣者前書之通是又勝手次第可申付旨被仰付候

一 吉田明神門前

吉田村内

濱田村内

濱田村内

一 赤沼郷地

一 田中町はつれ

細谷村内

一 浮草町

商買物數御定之外煮賣、赤飯等之商賣者前書之通勝手次第、尤明神門前へ計膳切蕎麦うんとんや壱軒可申付候

坂戸村

吉沼村内

一 善重寺門前

一 三隅田

右兩所へ清酒、飴、おこし、なり物類、餅、酢、醬油、豆腐、こんにやく、油、紙、苧商賣勝手次第申付、其外之品々ハ先年御定之通たるへき之旨被仰付候

坂戸町付村

一 羅漢寺門前

清酒、飴、おこし、なり物類、もち、酢、醬油、とうふ、こんにやく、油、紙、苧、煮賣、赤飯、刻煙草、草履、草鞋商賣勝手次第、其外ぜん切そば、うんとん屋ハ壱軒可申付旨被仰付候

武茂御郡下

- 一 袴塚村 一 常葉村内谷中 一 川和田横丁
- 末 一 常葉村内榎本 一 常葉村内神應寺門前
- 脇郷地 一 同村内本山丁 一 同村内風呂下

一 寺社門前

- 一 谷中、袴塚へ御定商物數之外膳切蕎麦、温飩屋式軒、煮賣、赤飯賣買勝手次第、元結、油紙、たほこ入、卸之外商賣是亦勝手次第可申付旨被仰付候

- 一 神應寺門前元山町、川和田横町末、榎本此三ヶ所へ御定之商物數之外膳切蕎麦、温飩屋式軒可申付旨右之外煮賣、赤飯等之類ハ右谷中等之通相心得可申由被仰付候

但、寺社門前之儀ハ其郷地へ組入候間、別而御達二ハ不及旨被仰付候

- \*一 風呂下御定之外煮賣、赤飯、元結、油おこしの外賣買勝手次第、其外之品々ハ御定之通可仕由被仰付候

右御町續之郷地分之御達ニ御座候、且造り酒屋之儀ハ酒株之所持之もの共ハ何れ之村ニ而も渡世爲仕候、

右之外御町續に無之村々ハ宿場或市町に相立候場所ニ而ハ繰綿、太物、小間物、菓種、穀物等之類をも商賣仕候儀ニ御座候  
右御國中御法度之儀ニ付ケ條書

（\*貼紙）

「元祿四未年

- 一 輕罪十より内者村へ被下、鼻首以上之者拾才ニ而も上り者、但女ハ四拾九まで五十より者重罪ニ而も村へ被下

辰九月

- 一 男女四才より七才迄穉式合五勺ツ、
- 一 男女共に上りものになり被仰付候日より右之積村ニ預ケ置候内ハ不被下

（改丁）

- 一 御制札

定

- 一 切支丹宗門者累年御制禁たり、自然不審かましき

もの有之者申出へし、御褒美として

はてれんの訴人 銀五百枚

いるまんの訴人 同三百枚

立帰もの訴人 同断

同宿并宗門訴人 同百枚

右之通可被下之、縦同宿宗門之内たりといふ共訴人  
に出る品により銀五百枚可被下之、隱置他所よりあ  
らわるゝにおみてハ其所之名主并五人組まで一類共  
に可被処嚴科もの也、下知如件

天和二年五月 奉行

〈百七〉

定

一 忠孝をはけまし、夫婦兄弟諸親類にむつましく、召  
仕之ものに至迄憐愍をくハふへし、若不忠不孝のもの  
あらハ可爲重科事

一 萬事おこり致すへからず、家作、衣服、飲食等に及  
ふまで儉約を可相守事

一 悪心を以て或は偽り、或ハ無理を申懸、或は利欲を  
かまひ人の害をなすへからず、惣而家業をつとむへき

事

一 盜賊并悪黨もの有之ハ訴人に出へし、屹卜御褒美可

被下候事

附、轉奕堅令制禁事

一 喧嘩口論令停止之、自然有之時は其場江猥に不可出

向、亦是手負たるもの隱置へからざる事

一 被行死罪之族有之剋被 仰付輩之外不可馳集事

一 人賣買堅令停止之并年季召抱之下人男女共ニ拾ヶ年  
を限へし、其定數過ハ可爲罪科事

附、譜代之家人又者其所ニ住來之輩他所へ相越、在

付妻子をも令所持、其上科なき者不可呼返事

右之條々可相守之、於有違犯之輩者可被処嚴科旨所被  
仰出之也、依下知如件

天和二年五月 奉行

〈百八〉

定

一 毒藥并爲似菓種賣買之義彌堅制禁之、若商賣仕にお  
みてハ可致罪科、たとへ同類たりと言共訴人ニ出る輩  
ハ御ほうひ可被下之事

一 似セ食銀賣買一切停止たるへし、自然持來におゐて  
兩替屋にて打潰、其主に可返之、并はつし金の銀似セ  
金銀座銀座へ遣し可相改之事  
付り、似セ物すへからざる事

一 寛永之新錢、金子壹兩二四貫文、勿論壹分二ハ壹貫  
文、御領私領共に年貢收納等にも御定之可爲員數事

一 新錢之儀何之所に而も御免なくして一圓不可錢出之、  
若違犯之輩有之者可爲罪科事

附、惡錢、似セ古錢、此外撰へからざる事

一 新作の慥ならざる書物不可致商賣事

一 諸色之商賣或は一所に買置、しめ賣或ハ申合高直に

不可致事

一 諸職人申合作料之手間賃等高直にすへからず、惣而  
誓約をなし、結徒黨義可爲曲事

右之條々可相守、此旨若違犯之族可有之者可被処嚴科も  
の也、依下知如件

天和二年五月

奉行

〈百九〉

定

一 被 仰出 公儀諸事御法度之旨堅可相守事

一 傳馬之儀者勿論往還之駄賃共に不嫌風雨夜中無滞可  
出之、若當所に馬無之刻者隣郷之馬を雇無遅々様に可  
出之、駄賃御定之外増錢取間敷事

附、から尻、歩行荷者可爲駄賃半分

一 往還之者一宿は不苦、二夜共逗留有之者前後承届宿  
可仕、若不審かましき者におゐてハ庄屋組頭に相断、  
其上品により郡奉行迄可致注進事

附、宿錢御定之通たるへき事

一 往還之者領内にて手負死人於有之者早速郡奉行迄注

進可仕事

一 竹木猥に伐採ましき事

右之條々堅可相守、若違輩之族於在之者可爲曲事もの也、  
依下知如件

天和二年五月

若老衆三人

〈百十〉

覺

捨馬之儀二付段々被 仰出候処頃日茂捨馬仕候もの有之  
候、急度御仕置可被 仰付候へ共、先此度も流罪被 仰

付候、向後捨馬仕候もの於有之者可被行重科もの也

極月

〈百十二〉

定

人賣買彌堅令禁止之、召仕之下部男女共に年季拾ヶ年限といへとも、向後年季之限無之譜代に召抱候共、可爲相對次第候間可改其旨もの也、依如件

元祿十二年三月

奉行

〈百十二〉

定

在々にて若鉄炮打候もの有之候ハ、申出へし、并御留場之内にて鳥を取申もの捕候ハ、見出候ハ、急度御褒美可被下置也(もの脱)

享保六年丑二月

〈百十三〉

條々

一 公儀之船ハ不及申諸廻船共に遭難風時ハ助船を出、船不破損様に成程可入精事

一 舟破損之時は其所ちかき浦之もの精入荷物船具等取揚へし、其場所之荷物之内浮役物者式拾歩一、沈荷物

者拾分一、川船は浮荷物ハ三拾分一、沈荷物ハ式拾分一、取揚ものに可遣之事

一 沖にて荷物はぬる時者着船之湊に於て其所之代官下代庄屋出合遂穿鑿、舟に相殘荷物船具等之分可出證文事

附、船頭浦之者と申合荷物盜取之、はねたるよし偽申におゐてハ後日に聞と言ふとも、船頭は勿論申合之輩悉ク可被行罪科事

一 湊に長々船を掛置輩あらハ其子細を所之者相尋、日和次第早々出船致へし、其上二も令洩者何方之船と承届之、其浦之地頭代官江急度可申達事

一 御城米廻之刻舟具、水主不足之惡船に不可積之、并日和の節於令破損者沖之船頭可爲曲事、惣而理不盡之儀申懸之、又ハ私曲於有之者可申出、縦雖同類其科をゆるし御褒美可被下之、且又あたを不成様に可被仰付候事

一 自然寄船并荷物流來におゐてハ可揚置之、半年過迄荷主於無之ハ揚置候輩可取之、若右之日數荷主雖爲出(通脱カ)來、不可返之雖然其所之地頭代官指圖を請へき事

一 博奕惣而賭之諸勝負彌堅可爲停止事

右條々可相守、此旨若惡事仕におゐてハ可申出、急度御褒美可被下之、科人者罪之輕重に随ひ可爲御沙汰もの也

天明二年正月日

奉行

〈百十四〉

一 前々より浦々高札相建 公儀之舟者不及申諸廻船共に猥成義無之様に被 仰付候処、遭難風候節も所之もの共舟之助には不相成、却而破損之様に致、懸荷物を刎させ、或は上乘、船頭と申合不法之義共有之様に相聞不屈に候、御料者御代官私領ハ地頭より常々遂吟味、毛頭不埒不仕様ニ屹可被申付候、若此上不埒之儀於有之者後日に相聞候共其ものはいふに不及、所之者まで可被行重科、其上所之御代官地頭迄可爲越度事

一 御城米船近年破損多候ニ付、今般諸事相尋別而大切に可仕旨申渡、舟足之儀も深不入様に大坂舟ハ大坂奉行、其外國々之船者其所之御支配之御代官より舟足定之所ニ極印を打、船頭、水主も人數を不減少様急度申付令運漕節に付、依之湊へ寄候船之分ハ、船頭、水主人數并舟足極印之通無相違哉送状引合急度相改帳面に

記置、上乘船頭に爲致印形、右書物其所に留置、御料

ハ御代官私領者地頭へ差出之、御代官并地頭より御勘定奉行迄可被指出候、且又極印より舟足深入候舟有之

候ハ、積候俵數委細ニ改之、御城米之外船頭私之運賃

を取、他之米穀或は商買之荷物等積合候歟、又ハ水主

人數定之内令減少候ハ、私に積入荷物を其所に取揚

置、水主人主不足之分者其所にて慥成水主を雇、出船

いたさせ、其上にて右之譯早速御勘定奉行江可訴之事

一 破船有之候節浦々之者共出會、荷物舟具等取揚候刻

盜取候歟又ハ不屈之仕方於有之ハ、船頭より不隱置有

跡に早速可訴之事

右條々屹可相守、若違犯之輩於在之ハ詮議之上可被行罪

科、不吟味之子細候ハ、其支配御代官又は地頭まで可爲

越度もの也

〔正徳二〕辰八月

奉行

〈百十五〉

定

何事によらずよろしからざる事に百姓大勢申合せ候をと  
とうとなひ、ととうしてして願ひ事くわたつるをこ

うそといひ、あるいひわ申合せ村方たちのき候をてうさんと申、前々より御法度に候条、右類之儀これあらは居村他村にかきらす早々其筋之役所へ可申出、御ほうひとして

ととうの訴人 銀百枚

こうその訴人 同断

てうさんの訴人 同断

右之通下され、其品により帯刀苗字も御免あるへき間、たとへ一旦同類に成共發言いたし候者の名前申出におみてハ其科をゆるされ、御ほうひ下さるへし

一 右類訴人いたすものもなく村々騒立候節、村内之ものを差押へ、ととうにくわゝらせす耆人も不被指出村方これあらハ、村役人にも百姓ニても重に取しつめ候者ハ御ほうひ銀下され、帯刀苗字御免、さしつゝきしつめ候者共もこれあらハそれそれ御ほうひ下しおかるへきもの也

明和七年四月 奉行

〈百十六〉

一 御制札場式拾三ヶ所

松岡御郡下 〈拾三ヶ所〉

磯原村 安良川村 高戸村 足洗村

田尻村 會瀬村 川尻村 河原子村

介川村 水木村 久慈村 村松村

平磯村 大津村 澤村 石神外宿村

額田村 大橋村 徳田村 町屋村

森山村 小木津村 柳澤新田

一 御制札場太田御郡下七ヶ所

太田村 部垂村 天下野村 太子村

山方村 町付村 下野宮村

一 御制札場武茂御郡下

〈以下欠〉



水戸領中御法度箇条秘書

二〇二〇年六月二〇日 発行

編者 古文書学習会

発行所 古文書学習会

茨城県日立市宮田町五十二二三  
日立市郷土博物館内